

# キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

## 「祝福の朝を響かせて」

日本基督教団春日井教会牧師 榮 嶽

朝の時間が一日を決めます。しかし朝だからこそ、いろんな思いも迫ってきます。もっていかなくてはいけない資料が見つからない。カバンに入っていたハンカチがなぜかぐちゃぐちゃで汚い（そう言えば昨日こぼしたコーヒーを拭いたのだった！）。なぜか玄関の扉に頭を打ち、出血を止める絆創膏を額に貼る。なぜ昨日のうちに確認しておかなかったのか・・・。一日の始まりに後悔と焦燥が襲ってきて、不安と怒りが募ります。今日も一日向かわなくてはならないなんて！！この番組を聞かれている方の中には、そのような日常的ドタバタだけではなく、何もない朝の苦しみを歩む人もいるかもしれません。朝、目を開けても昨日と同じ日が続く憂鬱。話しかけられるのは、「ご飯ですよ」に続く生活の指示だけ。自分の命を見つめ、自分の存在に語りかける声を長らく聞いていない。今日もとりあえず一日が始まる。そんなやるせない朝が「憎い」と思う人、もう一日に期待することも諦めて「生活をこなすだけ」を心に決めた人もいるかもしれませんと、黙想します。

聖書の中の苦悩の人物・ヨブは、愛する家族も財産も失い、病の床で言います。「なぜ滅ぼし尽くされずにいるのか」（新共同訳・ヨブ 23:17）、「このような者には、朝が死の闇だ」（24: 17）。

朝が苦しい。それは、存在することが苦しく、生きようとする生命の鼓動が煩わしいということ。苦しみを受けてまで存在することは苦痛だという叫びです。

時折、寡婦となった方から「もう天に召されたい」という声を聞くことがあります。それは「天への憧れ」も含みながら、ヨブの叫びをも含んでいるのではないかと想像します。「このようになってまで、存在しているのは辛いし、苦しい」、「もう全てを辞めたい」と。聖書の語る神様は、苦しみを共に歩む神様です。それは私たちの苦しみを知らないのではありません。苦しみを知り尽くしている。私たち以上に私たちのことを

知っておられる。その神様は、御子を地上に送る時に、天使に言わせました。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」（ルカ 1:28）

神様と出会うところで、存在への祝福が語られます。これはなんとも皮肉なことです。なぜなら、私たちは落ち沈み、戸惑い、もう全てを辞めたいとまで思ってしまう生き物なのですから！私たちの「辞めたい」とは逆行するのが、神様の「おめでとう」です。しかしながら、なんとも不思議です。神様の語る「おめでとう」は私の想いに反しているはずなのに、背中を押す励ましに満ちています。なぜなら、この「おめでとう」は、私たちの苦しみを知る方の祝福だからです。苦しみを知らない者の「おめでとう」は、ただの挨拶に過ぎません。流れていく「声かけ」の一つでしかなく、なんの励みにもならない。なぜなら、私のことなど見ていない、気休めの言葉に過ぎないのですから。しかし、苦しみを知る方の「おめでとう」には力強い励ましがあります。それは苦しみにおいてまで私たちと出会おうとする方の祝福だからです。

この「おめでとう」を実際に天使に言わされたのは、イエス様の母マリアです。マリアは、いきなり神の御子をお腹に宿します。その結果、夫ヨセフとの関係が危ぶまれる危機にまで陥りました。祝福というよりは、不安の募る事態です。しかしこの不安の時にも、いえ、人生の不安が頭をのぞくこの時だからこそ！主の祝福がマリアの人生を貫きます。「おめでとう、恵まれた方」。なぜなら、存在の痛みと苦しみに出会うこの時にこそ、主があなたを見捨てずに「共におられる」からです。

私たちの存在に出会う主の「おめでとう」が、番組を通して届けられますように。祝福の朝を導く主に信頼して。

## 「平和を祈る」

日本基督教団名古屋北教会牧師 **山田詩郎**

<sup>16</sup> 砂利をかませてわたしの歯を碎き塵の中にわたしを打ち倒す。<sup>17</sup> わたしの魂は平和を失い幸福を忘れた。<sup>18</sup> わたしは言う「わたしの生きる力は絶えたただ主を待ち臨もう」と。<sup>19</sup> 苦汁と欠乏の中で貧しくさすらったときのことを<sup>20</sup> 決して忘れず、覚えているからこそわたしの魂は沈み込んでいても<sup>21</sup> 再び心を励まし、なお待ち望む。<sup>22</sup> 主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。<sup>23</sup> それは朝ごとに新たになる。

(哀歌 3:16-23)

「あの日あの時・・・なぜ一緒に死ななかつたのでしょうか。なぜわたしたちのみ、かような悲惨な生活をせねばならぬのでしょうか。」

長崎で被爆したカトリックの医者、永井隆の言葉です。一つの爆弾は妻の命を奪い、瞬時に街を廃墟に変えました。

「なぜ長崎に、なぜ浦上に、原爆が落とされねばならなかつたのか」

「なぜ生きねばならぬのか」・・・。

この「なぜ」は80年前の永井だけのものではありません。今も世界で、日本で悲嘆の声が上がっています。あなたにもすべてが崩れ去るような経験があるでしょう…。

今朝、私たちに与えられたのは哀歌。「なぜ!」「どうして!」と叫ぶ哀しみの歌。紀元前587年、戦争でエルサレムの町は滅び去りました。第3章には、心くず折れそうになりながら、しかし必死に抵抗し、自分を保とうとする男の姿があります。

日本語訳では隠れていますが、聖書の原文で見ると、彼の激しい怒りがより鮮明に見えてきます。「**あいつ**が砂利をかませてわたしの歯をくだく!」「**あいつ**が塵の中にわたしを打ち倒す!」男の哀しみは怒りとなって、神に向かいました。もう「主」「神」などとは呼べず「あいつ」と言う。「このような事を許す神なら神などいらない!」と叫ぶ。そして最後には死を願って言います、「わたしの生きる力は絶えた」と…。

ところが彼は22節に至って、再び歌い出します。**「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して**

尽きない。それは朝ごとに新たになる。」

「あいつ」と言っていた口が、主を賛美して止まない。彼はどこから再び歌う力を得たのか。

絶望の18節と希望に溢れる22節。この間に、彼が再び歌い始める力の源があるはずです。

そこには「苦しみを決して忘れない、魂を沈み込める」と語る者がいます。それはこの男ではなくて、主なる神御自身。

「わたしは、あなたが苦汁と欠乏の中で貧しくさすらったときのことを、決して忘れない。わたしの魂を、あなたの苦しみにまで沈み込め、あなたの心を再び励ます。」

人の苦しみの極みにまで降ってくださるのは、独り子を十字架に賜った神御自身に他なりません。この神に語りかけられた男は、状況が良くならずとも、再び心を励まされて待ち望み、「主の慈しみは、新たになる!」と歌うことができたのです。

今朝の箇所の後、この男は仲間をも励まし始めます。そこに印象深い言葉があります。「塵に口をつけよ、望みが見いだせるかもしない」。

自分の力に頼って、倒れないように、崩れないようにと思い続けていたあの時、心は頑なになり、遂に「生きる力は絶えた」と折れてしまった。けれども、神の前にくず折れ、口を塵につけたとき、朝ごとに新たになる神の慈しみを見出した。かがみ込み、沈み込んでまで助けに来てくださる神に会ったのです。

冒頭で紹介した永井はじめ浦上教会の信徒達も、跪き、口を塵につけることを心得ていました。「なぜ自分たちが?」との問いを抱いたとき、敵国を責めるのでも、国家の体制を恨むのでもなく、神の前に膝を折りました。冒頭の永井の言葉の続きをこうあります、「なぜわたしたちのみ、かような悲惨な生活をせねばならぬのでしょうか。わたしたちは罪人だからでした。今こそみじみ己が罪の深さを知られます。」「知恵の木の実を盗んだアダムの罪と、弟を殺したカインの血とをうけ伝えた人類が、同じ神の子でありながら偶像を信じ、愛のおきてにそむき、互いに憎しみ互いに殺し合って喜んでいた」!

あの哀しみの中で、神の前にうち崩れ、口を塵につけて、自らの罪を告白したのです。しかし、そこで力を得、平和を祈り始めた、「神は見捨てることはない」と、互いに励ます交わりを作り始めた。

永井は、被爆した人々を救護し、放射線の研究をしました。平和を訴え、次の世代のために文書や記録を書き残していました。何より、主キリストを証

し続けました。

神は、塵に口をつける柔らかな心をくださいます。自分の罪を、神に向かってはっきりと認める、しなやかな心をくださいます。

そこでこそ希望を見いだすことが出来る。そこでこそ平和の祈りは始まるのです。

## キリストへの時間 トピックス

### 「あなたの平和の器に」

日本キリスト改革派犬山教会 青山昭一郎

ユネスコ憲章は「戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならぬ」と宣言しています。

今日の世界情勢を見る時、私たちは本当の平和（シャローム）を祈らずにはおられません。

私たちは、神様による救いを待ち望んでいますが、それを旧約聖書では、シャローム（救い）という言葉であらわしました。これはユダヤ人たちにとっては独特な表現ですが、訳せば、簡単に「平和」とか、「平安」とか訳されます。けれども、この「シャローム」という言葉は、非常に内容の豊かな言葉であり、この地上の生涯では「充足の生涯」ということがいえます。

個人的な救いとか、安全とかというだけでなく、もっと大きな国家社会、地球的、宇宙的なものを含んだのが、「シャローム」という言葉の意味だと思います。

教会福音讃美歌の485番は「あなたの平和」です。

『あなたの平和の器にして下さい  
主よわたしをあなたの平和の器に

1 憎しみある所に あなたの愛があるように  
悲しみある所に 喜びがあるように

2 絶望ある所に 希望の道があるように  
暗闇ある所に 光が満ちるように

3 慰められるよりも 慰めることを求める  
愛されることよりも 愛することを求める

赦すことにより 私たちは赦され  
神の愛を伝える 平和の器に』  
と讃美します。私たちは、本当に主の平和の福音の器に用いられたいと思います。

私たちは置かれた所で、主に仕えて行くことが求められています。

イエス様ご自身を、私の喜びとすることこそ、新しい私たちの生き方であるべきです。私の罪のために十字架にかかってくださったイエス様は、全世界の創造主であり、この世界を、「新しい天と新しい地」へと造り替えてくださる方です。

今、恵まれている方も、恵まれていない方も、神様に目を向けようとしているときには、一切が空しいと思います。しかし、どんな状態にあっても、神様を仰ぐとき、そこには輝かしい出発があります。神様は小さな者を祝福し、それを用いて御業をされるお方だからです。

神様は、この私を愛して下さっています。

そして、その同じ神様が、あの人も、この人をも愛しておられます。日毎の祈りの中で、この聖書の告げるメッセージを受け留め、絶えず聴き、聖名を呼びつつ今日の現実を生きて行く。ここに、今日、私たちがキリスト者として生きている、否、生かされている意義があると思います。

キリストへの時間のラジオ放送と共に、是非教会福音讃美歌485番をお聞きください。私たちの祈りが本当に適えられます様に、それを本当に信じて祈りたいと思います。

## 「ファンレターもお待ちしています」

この夏のこと、名古屋東郵便局私書箱170に一通のお便りが届きました。宛名には何と、「キリストへの時間」を担当してくださるアナウンサーさんのお名前が記してあります。ファンレターなのでしょうか、こんなこともあるのですね！何だか、私書箱がこれまでとは全く違った色合いで見えることでした。

お便りは、封を解かれないままアナウンサーさんの手元に届くのを一日一日待っています。そしてついに、「キリストへの時間」協力委員会の日がやってきました！当のアナウンサーさんもお集まりくださいましたので、お便りをお届けすることができました。

このように委員会では、毎回アナウンサーさんたちにも陪席して頂き、お寄せいただいたお便りを一通一通確認し、番組制作のために役立たせていただいてお

ります。そしてどうやら、このようなファンレターが届くのは番組が始まってから初めてのことだそうです。

お便りには番組に対する想いが熱く綴られていました。アナウンサーさんのご了解をいただき、感謝をもって委員会で分かち合わせていただきました。ファンレターをお寄せください、ありがとうございました。

毎週ラジオでお声が聞けるアナウンサーさんたちは、視聴者の皆さまにとってお話を担当する牧師よりも身近な存在となります。視聴者の皆さまも朝のご挨拶を楽しみに待っておられることでしょう！アナウンサーさんたちの貴いご奉仕を心より感謝申し上げます。

「キリストへの時間」協力委員 八束 清



## 「キリストへの時間」放送予定 2026年1月～6月

### 1月

- 4日 馬渕宣子（日本基督教団瀬戸永泉教会信徒）
- 11日 馬渕宣子（日本基督教団瀬戸永泉教会信徒）
- 18日 ケイトリン・オーケイン（金城学院教育宣教師）
- 25日 ケイトリン・オーケイン（金城学院教育宣教師）

### 2月

- 1日 小室尚子（金城学院理事長）
- 8日 小室尚子（金城学院理事長）
- 15日 落合建仁（金城学院大学宗教主事）
- 22日 落合建仁（金城学院大学宗教主事）

### 3月

- 1日 榮 厳（日本基督教団春日井教会牧師）
- 8日 村山盛芳（日本基督教団南山教会牧師）
- 15日 村山盛芳（日本基督教団南山教会牧師）
- 22日 小林 光（日本基督教団熱田教会牧師）
- 29日 小林 光（日本基督教団熱田教会牧師）

### 4月

- 5日 相馬伸郎（日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師）
- 12日 相馬伸郎（日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師）
- 19日 山下正雄（RCJメディアミニストリー主事）
- 26日 山下正雄（RCJメディアミニストリー主事）

### 5月

- 3日 山田詩郎（日本基督教団名古屋北教会牧師）
- 10日 稲田勝之（日本基督教団中京教会牧師）
- 17日 稲田勝之（日本基督教団中京教会牧師）
- 24日 辻順子（日本基督教団鳴海教会牧師）
- 31日 辻順子（日本基督教団鳴海教会牧師）

### 6月

- 7日 沖崎学（金城学院高校教主事）
- 14日 沖崎学（金城学院高校教主事）
- 21日 北川美奈子（金城学院中学校宗教主事）
- 28日 北川美奈子（金城学院中学校宗教主事）

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送  
郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間



ホームページはこちらから